

第1回 阿賀野市総合計画審議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：平成 29 年 6 月 1 日（木）午後 2:00～3:30

場 所：阿賀野市役所 403 会議室

出席者：上松（和）委員、小林委員、羽賀委員、漆山委員、武田委員、百都委員、
島田委員、相澤委員、横井委員

2 議事概要

地方創生関係の交付金事業の効果・検証について

- （1）地方創生加速化交付金事業
- （2）地方創生推進交付金事業
- （3）地域少子化対策重点推進交付金事業及び結婚新生活支援事業

3 主な意見

- （1）地方創生加速化交付金事業（塾のコンビニ！市民総活躍のまちづくり事業費）

【英語塾】

○空き家改修は行ったのか。

- 空き家は交通の便が悪く会場に向いていなかったため、改修は行わなかった。
英語塾は水原公民館で実施した。（市長政策課長）

○受講者数の目標値の設定基準は何か。

また受講者のうち小・中・高校生・一般市民の内訳はどうなっているか。

- 後日説明する。（市長政策課長）

→6月5日 資料提供済

～受講者数の目標値の設定基準～

1 クラスあたりの定員数は 12 人、1 週間のクラス数は 14 クラスであるが、
定員割れを考慮し、1 日あたりの受講者数を 12 人と見積もった。

また開講期間は 8 月～3 月の 8 ヶ月間であり、祝日等を除くと開講日数は約 150 日。

従って受講者数の目標値を 12 人×150 日=1,800 人と算出した。

～英語塾受講者内訳～

小学生低学年	男 21	女 27	計 48
小学生中学年	男 17	女 19	計 36
小学生高学年	男 05	女 19	計 24
(小学生小計	男 43	女 65	計 108)
中学1年生	男 02	女 10	計 12
中学2, 3年生	男 01	女 04	計 05
(中学生小計	男 03	女 14	計 17)
高校生・一般	男 07	女 29	計 36
合計	男 53	女 108	計 161

- 英語の必修化で小学校の教育はどう変わっていくのか。
- 実際に必修となるのは平成32年からだが、現在、各校で準備は進めている。
3,4年生は英語に慣れ親しむ教育を行う。現在の5,6年生の内容を実施するイメージ。
5,6年生は教科となり、読み書きも学ぶ。教科なので評価も行う必要がある。
どちらにしても授業時数が増えるため、どのような教育課程にするか、年間指導計画にするか作成中である。
- 英語塾でも英語を楽しむところから始めている。(市長政策課長)

【健康塾（いきいき教室、フィットネス教室）】

- 毎週新しい参加者を呼んでいるが、多くの参加者が集中するため器具の利用ができず、不便である。
- 開催日や器具を増やすことで対応したいが、安田は他団体も利用しているため週3回が限界である。京ヶ瀬も安田に合わせて週3回の開催としている。器具は安田に1台、京ヶ瀬に2台を購入したが、予算・収納スペースの関係でこれ以上の増設はできない。
(健康推進課長)

【観光塾】

- 養成したガイドの活躍場所はあるのか。
- まちあるきガイドの会に11名が登録されているが、ガイドを実践できるのは1名のみ。
この1名については要請があれば対応できる。当面は水原地区限定。(商工観光課長)
- 実績額のうち改修工事の費用はどのくらいか。
- おんこ茶屋の改修工事に7,452千円、備品購入に2,450千円。(商工観光課長)

- まちあるきガイドはメディア露出等あるが、その1名とはどんな方か。
- 70代前半、無職。平日にも活動するため現役世代には務まらず、高齢すぎても難しい。
(商工観光課長)

- 佐渡では、小学生が総合学習で学んだ内容を観光客に発表するという活動を行っている
そうである。阿賀野市でも小・中・高校生ガイドの活躍を検討してみてもどうか。
- あくまで要請された場合にガイドを行うものであり、小・中・高校生のガイドについては
現時点では考えていない。(商工観光課長)

- まちあるきガイドはどうPRしているか。またガイドの目標人数は何人か。
- 平成25.26年に新潟交通観光バスと連携してガイドを行った実績がある。しかし現在は
実践可能なガイドが1人しかいないため無理にPRできない。ガイドが5,6人程度にまで
増えればPRを行いたい。(商工観光課長)

- 温泉街の観光客に対するガイドは行っているか。
- 複数人が対応できるようになれば可能になると思われる。しかしガイド先は水原地区が
中心となるため、温泉街の観光客のニーズも考える必要がある。(商工観光課長)
- 活躍の場がないとガイドもやる気が出ないのではないか。場づくりが課題だと考える。

【放課後スクール地域拡大事業】

- 実績額のうち改修工事の費用はどのくらいか。
- 笹神保健センターの改修工事に16,308千円、耐震第二次診断・改修設計業務委託費に
2,268千円、運営費に60千円。(生涯学習課長)

【まちづくり塾】

- どのような目的で行っているのか。
- 自分の住んでいる地域の理解を深め、塾生同士で交流すること。(生涯学習課長)
- テーマを明確にしないと集まりづらいのではないか。
- 参考にする。(生涯学習課長)

(2) 地方創生推進交付金事業

【ICTを活用した「稼げる」まちづくり・ひとづくり事業】

- 1件あたりの付加価値額の目標は達成しているのか。
また今後の課題や改善案が具体性に欠けているので説明願いたい。

●1件あたりとしては良好な数字である。

米価が下落する中で、ICTを利用した稼げる園芸をモデル的に取り組み、阿賀野市農業の生産性向上を目指すものである。(市長政策課長)

○ICT教育については入口の積み上げが将来的な育成に繋がると思う。

●これからはICT教育ということで小・中・高校にも提言している。(市長政策課長)

○離農が多いので、園芸はもちろん米もどうなるか不安である。新規就農者を育てるために

子供たちが農業に興味を持つきっかけ作りが必要。

○小学生は社会科や総合で農業体験をしているが、自分の将来とうまく結びついていないのが現状ではないか。農業の大切さ、作る喜びをしっかりと学ぶ必要がある。また農業の学習については小・中学校の学びの系統性がないのが残念である。

●米については作業の集約化、効率化を実施。しかし米だけでは将来的に厳しいため園芸の振興が必要と考えている。ICTの導入で園芸の手間を省き、就農のハードルを低くする。また、うらの森の集客にも役立つと考えている。(農林課長)

【食・農業イノベーション拠点整備事業】

特に意見なし

(3) 地域少子化対策重点推進交付金事業及び結婚新生活支援事業

【素敵な出会い応援事業】

○阿賀野市の特色が出ているイベントだったのか。例えば農業を通じた出会いの場の演出など。

●参考にする。(市長政策課長)

○ディグラム診断の信用性はどうか。効果はあったのか。

●信用性は判断できないが話題性はあった。(市長政策課長)

【新婚生活支援事業】

○指標は補助金が結婚のきっかけとなった理由の一部という考え方で良いのか。

●その通りである。(市長政策課長)

○この地域で礼金を取ることは殆どないため、効果が薄かったと思う。家賃補助なら効果があったかもしれないが、それでも結婚のきっかけとなるかは疑問。